

SIG テーマ名	ディシジョンテーブルを もっとつかおう！	オーナー名(複数なら連名で)	林宏昌、田村拓也、奥良美
SIG オーナー プロフィール	<p>林 宏昌 某メーカーにて、ソフト開発とテストを担当。 TEF 東海ではドリル本勉強会、JaSST 東海ではポスターセッション、SIG を担当。 さらに TEF 東海合宿にて講師に挑戦。そして今回ワークに初挑戦します！</p> <p>田村 拓也 自動車関連のソフトウェア開発。 テストに興味を持ち、関東・関西・東海のテスト勉強会にて活躍。 今回は SIG を通じて、皆さんと共に成長します！</p> <p>奥 良美(男です) 自動車関連のハードウェア開発に従事。 この歳になってテストに目覚め、TEF や WAGATE に参加。勢い余って JSTQB-AL も取得。 ソフト以外の視点から皆さんにアドバイスさせていただければと思っています。</p>		

対象者【注意】ワークショップに参加された方のみ、本 SIG に参加可能です。

- ・ **【必須】**ワークショップ【使ってみよう ディシジョンテーブル】に参加された方
- ・ テスト設計の経験はあるが、ディシジョンテーブルは使いこなせていないよという方
- ・ ディシジョンテーブルに興味のある方。

こんな話題でお話が出来れば

ワークの振り返りを通じて、今回勉強したディシジョンテーブルは現場でつかえそうか、どうやったらつかえるかななどを、皆さんと一緒に話し合いたいです。また職場でのテストに関する悩み等も、お互い解決しあえたら良いと思います

SIG オーナーの問題意識（テーマ選定の理由）

仕様書からテスト設計するのは、非常にたくさんの工数がかかります。

私は、仕様書が自然言語で書かれている場合どうやってテストをすればよいのかよくわからないことがあります。

その状況でテスト設計を担当者任せにすると、不具合が世の中に流出する可能性が高くなってしまいます。

品質を確保するため、新しいテスト技法を学ぶなどの努力をしたいのですが、理解するのが難しいテスト技法はなかなか現場では適応できない状況も正直なところですよ…

このワークでは、現場で即使えて、しかも効果が期待できるディシジョンテーブルをご紹介します。

ワークに参加すれば、「ああ、もっと早く使っていれば、仕様書のテストが綺麗にできたのに！」と言っていたと思います。

是非、たくさんのご参加をお待ちしております！

最後に

今回はワークに初挑戦と言うことで、進行面でのマズさなど多々問題が出るかもしれませんが、皆さんよろしくお願ひします。